

村山産業高等学校の校歌「花を大地に 光を未来へ」について

このことについて、下記のとおり制作いたしましたのでお知らせいたします。

1 制作者

- 作詞 近江 正人 氏（新庄市出身・新庄市在住）
 - ・ 元高校教員（庄内農業高等学校長：平成 19、20 年度、新庄南高等学校長：平成 21、22 年度）
 - ・ 「新庄市子ども芸術学校」実行委員長、日本現代詩人会会員
 - ・ 校歌作詞歴：霞城学園高等学校（校歌作成委員会として）、新庄神室産業高等学校
真室川町立真室川北部小学校、真室川町立真室川あさひ小学校
戸沢村立戸沢小中学校、尾花沢市立宮沢小学校
尾花沢市立福原小学校、山形県立産業技術短期大学校
 - ・ 主な経歴：国民文化祭（現代詩部門）教育委員会教育長賞（平成 16 福岡大会）
国民文化祭（現代詩部門）国民文化祭実行委員長賞（平成 23 京都大会）
詩集『ある日ぼくの魂が』第 10 回山形県詩人会賞（平成 23）
- 作曲 村川 千秋 氏（村山市出身・山形市在住）
 - ・ 音楽家
 - ・ 山形交響楽団創立名誉指揮者、日本指揮者協会・日本弦楽指導者協会各会員
 - ・ 主な校歌作曲歴：北村山高等学校、山本学園高等学校、村山市立葉山中学校
東京成徳大学、自由が丘ソレイユ学園専門学校
 - ・ 主な経歴：東京交響楽団で指揮デビュー（昭和 41）
山形交響楽団設立・音楽監督兼常任指揮者（昭和 47）
山形県教育功労者表彰（平成 4）、渡邊暁雄音楽基金特別賞（平成 6）
齋藤茂吉文化賞（平成 7）、地域文化功労者表彰（平成 16）
村山市名誉市民（平成 25）

2 依頼の理由

- 人選にあたっての方針等
 - ・ 次代を担う高校生に大きな夢と希望を抱かせる楽曲を期待できる。
 - ・ 新高校への期待と若者の気持ちを把握し、結び合わせる感性と技量がある。
 - ・ 校歌制作の経験があり、知名度も高い。
- 近江正人氏へ作詞を依頼した理由
 - ・ 校歌作詞の実績が多く知名度があり、高校生に対して希望や勇気を与え、また未来に向けた指針となる詞を制作している。
 - ・ 本県教員として高校教育に長く携わり、また専門学科設置校の校長を歴任するなどしており、専門高校の理念などを十分踏まえた作詞をしていただくことができる。
- 村川千秋氏に作曲を依頼した理由
 - ・ 地域文化向上のために山形交響楽団を設立するなど、地元を「自ら興す」という生き方が、村山産業高校の育てる生徒像と一致する。
 - ・ 著名な音楽家であるとともに校歌作曲の実績も多く、新高校の理念をわかりやすく音楽的に表現していただくことができる。また、本県における活躍が著しく、県教育功労者表彰、村山市名誉市民等数々の表彰を受けるなど知名度も高い。

3 制作者の意図

- 近江正人氏
 - ・ 永い歴史と伝統を誇り、数々の教育的な業績を上げてきた両高校の校訓や学校目標、特徴ある部活動や生徒の諸活動を下地にし、歌詞に盛り込むようにした。
 - ・ 将来、村山地域を始め本県の産業を担う実践的なスペシャリストを育成することや、故郷を愛し、その発展を願い、豊かな創造性と地域貢献の高い志を持った生徒を育成するという、高邁な学校目標のねらいをしっかりと歌い上げるようにした。
- 村川千秋氏
 - ・ みんなにとって歌いやすく、そして楽しく元気に歌えるようにし、末永く愛されながら歌い継がれるようにした。
 - ・ タイトルでもある最後のフレーズ「花を大地に 光を未来へ」は詞全体を集約したものであり、この部分を強調して元気に声高々に歌うことによって、詞の精神・心を忘れず伝えていって欲しいという願いを込めた。